

種々の「環境」をキーワードとしたフィールド実習の実施 — 保育環境、労働環境、地球環境 —

教員名：松原 勇・多久和典子

参加学生：小林久美子・小林茉耶・小堀有香・坂倉由佳・坂本靖奈・笹木加奈・眞田美誉

1. 地域活動の概要

まず、KJ法を用いて全員で「環境」に関するキーワードを列挙して、それらのカテゴリー分けを行った。その結果大きく3つのカテゴリーに分類された。

- ① 保育環境（育児環境、子育て環境、少子化対策のための環境、など）
- ② 労働環境（就労環境、勤務環境、勤務時の育児環境、など）
- ③ 地球環境（エコ対策、自然環境、地球環境、など）

それぞれの3つの「環境」のカテゴリーについて学ぶための具体的な施設として、調べた結果、

- ① 保育環境としては地理的にも近い「大海保育園」
 - ② 労働環境としては最も対策が実施されている「加賀屋」
 - ③ 地球環境としては最もエコ対策に力をいれている「いしかわ動物園」
- を選び、個別に交渉して、3つの施設ともに実習を受け入れてもらえた。

2. 地域活動の目的

- ① 保育環境の理解として「大海保育園」での保育実習及び見学・討論をした。
- ② 労働環境の理解として「加賀屋」での仲居さんとして実習及び見学・討論をした。
- ③ 地球環境の理解として「いしかわ動物園」でのエコ対策の実習及び見学・討論をした。

3. 地域活動の具体的な内容

- ① 保育環境の理解として「大海保育園」での保育実習では、2日間とも同じ子どもたちと触れ合うことが出来た。オムツ替えや着替え、おやつやご飯を食べさせてあげるなど、貴重な体験をした。お昼寝の時には、遊びたくて仕方がない子どもを、ちゃんと寝かせるためにうつ伏せにして背中をトントンと叩くとだんだんと眠くなって寝てしまうという裏技も教えてもらった。子どもたちがみんな寝ているときには、おもちゃを作らせてもらいました。ただの厚紙を丸く切って、2枚重ねてくっ付け、切った回りには彩りと安全性を兼ねてカラーテープを巻いた。1歳児の子どもたちと外へお散歩も行きました。月に一度の避難訓練もしました。最後の30分は4・5歳児と中庭で鬼ごっこをした。
- ② 労働環境の理解として「加賀屋」での仲居さんとして実習では、仲居さんの仕事内容と加賀屋の従業員がどう言う気持ちをもって働いているのかという事を学んだ。また、車椅子の人でもお風呂場にスムーズに行けるようにと作られたエレベーターなども見せてもらった。お出迎えの時、長時間、笑顔で挨拶をし続けるのが想像以上に大変で仲居さんのすごさに驚かされ。また、下膳作業の手伝いをした。食べ残しの処理や簡単な盛り付け作業も仲居さんの仕事であると知り、仲居さんの仕事は多いなと感じた。
- ③ 地球環境の理解として「いしかわ動物園」でのエコ対策の実習では、動物学習センターにて、園内でのエコ活動が説明されているパネルを見て学習した。さまざまな活動が行われていることを知った。次に、いしかわ動物園で、実際にどのような場所に環境対策が行われているのかを見学した。後に、責任者の方とともに施設を見学して、園内に、エコ対策について説明されている緑のパネルがあることを教

えてもらい、見落としていた環境対策の施設を見て回った。堆肥舎にて、まずは施設の説明をしていただき、堆肥ができるまでの課程を学だ。次に作業に移り、運ばれてきた生ごみをタンクに入れるまでを機械を使って補助し、後に、完成した堆肥を細かく粉砕する作業の手伝いをした隣の施設へ移り、梱包作業の補助を行った。次に、動物学習センターで行われる、エコツアーの補助を行った。まずは、エコツアーに参加する人を集めるために勧誘をした。次に、エコツアーの補助を行いながら、係りの方とともに参加者の方を案内した。最後に、朝袋詰めした堆肥を配布し、小さな子にはバッチを配った。午後からは、園内を回り、動物園のよさを学び、まとめの作業を係りの方とともにいった。

4. 地域活動の評価

①保育環境の理解として「大海保育園」での保育実習では、子どもたちが過ごしやすいうようにたくさんの工夫がしてあった。園内はとても広く、廊下に面した壁とドアなどはほとんどガラス張りで、どこからでも子どもたちの様子がわかるようになっていた。風邪をひいていた子どもが他の子どもに移さないために隔離するような部屋も用意してあった。クラスの中でも、本を読む場所・ご飯を食べたりする場所・おままごとなどをする場所・身体を動かす場所などと決められており、子ども同士が接触して怪我をしたりするのをあらかじめ防ぐ配慮がなされていることに気がついた。園の建物は中庭を中心にぐるりと取り囲む回廊式になっていた。廊下は、内側はコンクリート、外側が木のフローリングの2つが並行して完全なバリアフリーになっています。親御さんなどが迎えに来たらすぐに分かるようになっていた。それに、先生方と保護者の方とのコミュニケーションが取れると思った。おもちゃは誤って口に入れて飲み込まないように3.5cm以上の物と決めてあり、感心した。大海保育園が立っている場所は、車通りが少なく田んぼや木、緑に囲まれ自然があふれ、子どもが育つ環境として最適な空間だと判った。

②労働環境の理解として「加賀屋」での仲居さんとして実習では、加賀屋では、一組のお客様のお出迎えからお見送りなどを一人の仲居さんが担当し、仲居さんはそのお客様の夕食の時間や朝食の時間に合わせて出勤するため、勤務時間は不規則になりがちであると感じた。加賀屋は、仲居さんの肉体労働を減らすために、布団敷きの仕事は業者さんに頼んだり、加賀屋の近くに4カ所の社員寮を作ったり、勤務時間の間子どもを預けておくことができるカンガルーハウスという施設を作るなど、さまざまな取り組みをしていた。環境対策として、お風呂場のシャワーの水が出しっぱなしにならないように、自動で止まるシステムになっており、節水対策をしていた。実習を通して、相手の気持ちを第一に考え行動したり、努力することが大切だと感じた。将来、人を相手にして働く私にとって加賀屋での実習はとても勉強になり、加賀屋で実習出来て本当に良かった。

③地球環境の理解として「いしかわ動物園」でのエコ対策の実習では、環境対策についての話を聞き、私たちにできる環境への取り組みというのは、ごみを極力出さないことだと感じた。いしかわ動物園では、生ごみはすべて堆肥にしているので生ごみは出ないとのことだった。また、いしかわ動物園では、上水と下水の間である中水という、雨水をろ過して作った水を施設内の清掃や、トイレの水として使用していると聞き、このような活動も広がっていけば良いなと感じた。エコツアーの勧誘を通して、人とかかわり方の難しさを学び、大切さも学んだ。

5. 今後の課題

フィールド実習期間の2日間だけの実習のみとどまらず、今後も今回行った3つの施設のことについて「環境」に関する問題点をピックアップして、お世話になった実習施設に少しでも恩返しをできるように努力したいと考えている。